

名誉会員市浦健氏のご逝去をいたむ

本会の名誉会員の市浦健氏には、去る昭和
56年11月3日永眠されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

社団法人 日本都市計画学会

本学会の名誉会員であり、永年に亘って都市計画界のために先覚的な指導をつづけてこられた大元老とも云える市浦さんが去る11月3日お亡くなりになりました。謹んで哀悼の意を表します。

市浦さんは、戦前から厚生省、住宅営団等で住宅問題と取組んでこられ、戦後、戦災復興院、鹿島建設等を歴任された後、昭和27年に現在の「市浦都市開発建築コンサルタンツ」の前身である市浦建築設計事務所を開設されました。爾来、建設省や日本住宅公団をはじめ各地方公共団体等で企画、計画、実現を図った幾多の住宅、宅地、都市開発計画に対して、指導的立場のコンサルタンツとして協力の効を挙げられ、実に30年間に亘って、経済社会環境の変遷に即応して常に先覚的な提案を展開され、我国の住宅、都市の開発整備について偉大な業績を残されました。

一方その間に、昭和37年から都市計画コンサルタント協議会をリードし、特に団地計画等の業務・報酬規程の制定などコンサルタント業務の確立に尽力され、昭和48年以降は都市計画コンサルタント協会理事として、更に昭和54年からは同協会会長として今日まで約20年間に亘って、同業界の育成にご協力を尽されました。市浦さんは、元老と申し上げるにふさわしい大先輩であられながら、平素は周囲の私達にそうした年齢のへだたりを意識させない若々しい態度で接されました。まことに広い間口と奥深い蓄積を反映して常に物静かにおだやかな調子であられながら、仕事へのご熱意はいつも若々しく前進的な姿勢を示されました。尚々お元気でご活躍を期待しておりましたのに、巨星が消えたことに何とも云へないさびしさを痛感いたします。謹んでご冥福を心からお祈り申し上げます。

元・日本都市計画学会会長 楠瀬正太郎

略 歴

1904	1月24日山口県に生まれる
1928	東京帝国大学工学部建築学科卒業
1928～36	日本大学工学部予科教授、東京女高師講師
1936～41	厚生省体力局嘱託、同保険局技師
1939	広東都市計画調査団の一員として住宅計画を担当
1941～45	住宅営団研究部規格課長、東京支所事



1945～48	業部次長、仙台支所建設部長 戦災復興院住宅建設課技師、特別建設部建築工事課長、特別調達庁設計部長、調整局次長
1948～51	鹿島建設取締役、企画第三部長、名古屋支店長
1952	一級建築士（12556）の資格を取得
1952	株式会社市浦建築設計事務所を開設
1956～64	東京大学大学院講師
1958・1962～74	国際会議参加および都市・住宅事情視察のため毎年欧米に出張
1958	イラン住宅事情調査のため出張（建設省）
1961	都市開発コンサルタントを設立
1962	工学博士の学位を取得
1962～66	I.F.H.P（住宅および都市計画国際連合）理事
1966	技術士（建設部門・都市および地方計画4111）の資格を取得
1968	市浦建築設計事務所及び都市開発コンサルタントを合併し市浦都市開発建築コンサルタンツを設立
1970～73	日本建築家協会会長
1971	中央建築士審査会会長
1973	財団法人住宅部品開発センター理事長
1974	勲三等瑞宝章を授与さる
1974・75	都市および住宅事情調査のため中国に出張
1979～80	都市計画コンサルタント協会会長
1981	日本建築学会賞受賞（業績部門）
1981	日中建築技術交流会会長
1981	11月3日永眠 享年77歳 同日付をもって、従四位勲三等旭日中綬章を授けられました。

市浦先生の名前は、正しくは“つよし”と読むのであるが、御本人も英語のサインでは“けん”と書かれ、周囲の人々も“いちうら・けん”さんと呼んでいた。

明治37年山口県生まれ。昭和3年東京大学の建築学科卒業。同級生に前川国男氏、谷口吉郎氏などがある。大学院を出て、東京女高師や日大の講師をしていた時期には、工作文化連盟に参加したり、トロッケンバウを紹介して、その実験住宅を作るなど、多彩な活動をしている。

この頃我国には、コルビュジェやグロピウスなどが紹介され、先生は合理主義を身につけ、以降これが考え方の基本となっている。先生の合理主義は日常生活に及ぶもので、筆者は卒業後先生宅に伺った折り、御自身で台所に入って調理し客をもてなすのに驚いたことがある。

市浦先生の育った家庭は豊かではあったが、封建的面が強く、この反撥が当時としては超モダンな性格を創ったと思うと、先生にうかがった。

昭和11年厚生省技師、昭和16年住宅営団に入る。若き日の西山卯三氏もこの時一緒に職場で働いている。第2次大戦後すぐ戦災復興院、特別調達庁を経て、昭和23年鹿島建設に入社。建設業はむいていないということで、同26年退社。翌27年市浦都市開発建築コンサルタンツ(発足時は市浦建築設計事務所)を創設。以降昭和56年77才で亡くなられるまでの約30年、同コンサルタントを

主催し、それまで我国で一般化していなかった都市住宅としてのアパートを、公営、公団住宅として開発・設計、普及させた。更に住宅を諸コミュニティ施設と共に大規模に供給する団地・ニュータウン計画を先駆的に進めた。大阪の千里ニュータウンは、その代表例である。

昭和30年以後東大講師、建設省の各審議会委員、日本建築家協会会長、都市計画コンサルタント協会会長、住宅部品開発センター理事長などを務めた。

市浦先生の業績には、住宅生産の合理化や、昭和48年創られ亡くなるまで務められた住宅部品開発センター理事長としての、住宅部品の性能の向上・普及などが容易に想われるが、市浦都市開発建築コンサルタンツや各協会、審議会などを通じての後進の育成や、建築家や都市計画家の地位の向上、業務の確立に対する多大な貢献を忘れてはならない。この方面の論文も多い。昭和49年には、都市計画学会の名誉会員となっている。

